17日に開かれた自民党の総務懇談会で、憲法解釈変更による集団的自衛権の行使容認について「憲政に汚点を残す」と厳しく批判した衆院議員の村上誠一郎元行革担当相に聞いた。

◇

―反対する理由は。

むらかみ・せいいちろう氏　愛媛2区選出で当選9回。現在は衆院政治倫理審査会会長。

集団的自衛権行使容認で自民・村上氏

「解釈改憲は禁じ手」

「法の解釈権限は裁判所にある。政府にできることは、裁判所に『間違いだ』と言われないような解釈を選ぶこと。いったん（解釈改憲を）許せば、憲法のほかの部分も解釈で変えられてしまい、三権分立の原則を壊す恐れがある。政権交代の可能性もあり、そのたびに解釈が変わることがあれば（法治国家として）安定性を欠く」

「閣議決定後に（自衛隊法など）下位の法律の改正で憲法解釈を変えるのは言語道断。本当にやりたいなら憲法改正という手続きを経るのが筋だ。改正ができないから解釈を変更しようとしている。立憲主義に反する禁じ手だ」

―集団的自衛権の行使容認は必要と考えるか。

「疑問に思っている。イラク戦争のように間違った情報で戦争に加担した場合、誰が責任を取るのか。若い自衛隊員の命に関わる重要な問題なのに、解釈変更でできるとはとんでもない飛躍だ」

―安倍晋三首相は改憲の手続きを定めた96条の改正にも意欲的だ。

「憲法が定める主権在民や平和主義などは変えてはいけない『不磨の大典』だ。（96条を改正するとこれらの）大事なことを変えやすくなってしまう。96条は変えない方がいい」

―内閣法制局の小松一郎長官も首相と考えが近いようだ。

「内閣にも党にも官邸にもブレーキ役が誰もいない。そういう布陣が一番危ない。考え方の違う人間も入れてバランスをとらないと。中曽根康弘元首相が偉かったのは、後藤田正晴さんや梶山静六さんのように（安全保障政策で）考え方の違う人の意見も聴いたことだ」

―武器輸出三原則の緩和についてはどう考えているか。

「慎重にやるべきだ。なぜこんなに戦争準備を急ぐのか。他国を挑発するのが日本の外交として得策なのか」

【記事より抜粋】